



た。私は場所を移動して更に高い図書館前に移った。そこからは杉林を抜けた回廊の屋根が急勾配になっている難所が良く見える。勝社長が先頭に立って作業しているのが見えた。作業は私が想像していたよりもかなり早い。階段を登り切ったところまでは入り口から約100mある。その長さの屋根の修理を今朝から夕方までに終わらせようとしている。勝社長の指導力と社員の方々の能力に感動する。

屋 根の修理作業を写真に撮り、トランポリン組み立ての現場に戻るとすでに作業が終わっていた。トランポリンは5m四方位の大きさがある。真ん中に支柱が二本立っていてそこからゴムのロープで体を吊れるようになっている。ウインチが付いていて吊り上げる高さを調整し、安全に回転が出来るようになっている。付属の200V用のウインチを外して車用の12Vバッテリーで動かすウインチに交換しようと考えている。200Vの電源を引いたり100Vのモーターに交換して配線を引くよりずっと安くできるからだ。私自身はトランポリンで遊ぶ事が難しい年齢になったような気がするが、憧れの器具である事に変わりはない。

夕方4時近くになって屋根修理チームは階段上の急勾配の上の修理を終わろうとしている。長い期間修理出来ずにいた回廊屋根は見事に修復された。これでしばらくは安心出来る。

私は勝社長の会社が1年に1度会社の仕事として万本桜の山にボランティア作業に来てくれている事にすごく感心している。万本桜で過ごす一日が彼の会社のレベルアップや新たな各人の能力アップにつながる事を信じている。

JONはFRP強化プラスチックの製品を作っている会社で現在は医療機器のMRIやCTの本体カバーを制作している、更に現在は風力発電機の本体カバーも手掛けている。FRP業界では世界でも有数の技術を持っている。

会長の鈴木武さんは私の飛行機の先生であり飛行機仲間である。20年以上前から鈴木武さんから望まれて私がJON72の役員をしている付き合いである。その会社の社員が総出で万本桜を手伝ってくれるのだから、作業を通じて何らかの事を学んで役に立てて欲しいと心より願っている。勝社長とは中国工場を立ち上げる頃には一緒に中国人の教育をしたり、休みには一緒に海南島に行った事がある。年齢は違うが気心が知れた仲である。

数日前に勝社長から連絡があった。来年の4月にまた会社全員で万本桜に研修に来たいとの連絡だった。

■ 作業日誌 2020年10月9日 晴れ

全社員による回廊の屋根修理

気 になっていた回廊美術館屋根の杉皮葺きの修理がどんどん進んでいく。2年くらい前から風が吹くたびに回廊周辺にはがれた杉皮が落ちているのが目立つようになった。ところどころ杉皮がなくなり、屋根の下地がむき出しになっている。回廊の屋根が見渡らせる図書館前のテラスから見ると悲惨な感じだった。それを今回JON72の社員が修理に来てくれている。今まで修理ができなかった理由は杉皮を買う費用がないことと、作業する人がいない事だった。杉皮は一坪7000円くらいする。私の予測では50坪くらい必要なので35万円は必要だった。それに作業人数は屋根に登れる人がのべ30人は必要だと思われた。そんなことで伸び伸びになっていたところにJON72の鈴木勝社長が会社をあげてボランティア作業に来てくれることになったのだ。

去年も全社員参加でツリーハウスのペンキ塗り、草刈り、蔡さんの作品「龍骨」の防腐作業など普段手が回らないことをやってくれた。私は今回打ち合わせの時に回廊屋根の杉皮葺きの修理をお願いしてみた。勝社長は心良く了解してくれた。加えて鈴木武会長から寄付してもらったトランポリンの組み立てもお願いした。JONの社員が手伝いに来てくれる前に杉皮の注文をしなければならぬ。なんとかお金を工面して杉皮を50坪注文した。それから杉皮を押さえる細い竹も必要だった。かさくさも買って置かなければならぬ。

私は準備出来る物を準備して当日を待つ。車数台に分乗した社員の方々がやって来た。作業に使う道具や脚立も積んだ2tトラックも一緒だった。やはり準備がしっかりしている。こうして始まった回廊屋根の修理は見る間に進んでいく。勝社長自ら屋根に登り杉皮が剥がれた場所の竹を外して行く。そこに杉皮を張り次の人が押さえる竹をビス止めしていく。

私はツリーハウスの下でトランポリンの組み立てをしながら屋根の修理も眺めていた。数名のグループが屋根に登り、修理が済んだ場所がどんどん増えていく。流石に物作りを普段やっている人達は手際がいい。お屋前には用意していた杉皮を押さえる竹が無くなってしまった。トランポリンの組み立てを担当していた工場長率いるグループもほとんど組み立てが終わってきた。みんなが食事している間に竹を取りに行く人を募った。進んで参加を申し出た工場長と2名を軽トラックに乗せて小川江筋沿いにある竹やぶに向かった。竹が欲しければすぐに手に入るの幸せを感じながら竹やぶに到着した。竹を伐採して竹の葉を落とす。手分けして50本の竹を確保した。

午後からの屋根の修理作業もどんどん進んでいく。トランポリン組み立てしている場所からは回廊の屋根が見渡せる。白いつなぎを着た人達が数名ずつに分かれて屋根の上にいる。修理が終わった場所は杉皮の色が明るい茶色に変わっていて綺麗だ。パッチワークのように見える。作業は、杉林の中まで進んでツリーハウスの場所からは見えにくくなって来

茨城県の製造業ジェイ・オー・エヌ72 恒例の社員研修で回廊美術館の屋根修繕



茨城県北茨城市のJON72（鈴木勝代表取締役社長）のボランティア研修が二〇二〇年十月九日、いわき万本桜プロジェクトの山で行われた。

ボランティア研修は「会社を一つの大きな家族のようにしていきたい」という鈴木社長の考えのもと、鈴木社長が東日本大震災直後から続けて来たボランティア活動の流れを受けて二〇一四年に本格的にスタートした。二回にわたって全社員が交互にいわき万本桜プロジェクトの山を訪れて草刈りなどの作業を体験。最近では一日工場を閉め、社員総出で行うのが恒例になっていた。

コロナ禍となった今年は、人数を制限するなどの三密防止対策を講じつつ行われた。

今回の主な作業は、いわき回廊美術館の屋根材の張り替え。二〇一三年に開館した美術館の屋根は、防水シートの上に杉皮を敷き詰め、竹で固定しているが、風雨にさらされて所どころ傷みが目立ってきた。こうした箇所を新しい杉皮に張り替える作業を行った。初心者には難しい高所作業だが、同社が新たに受託した事業で高所作業の研修を受けている社員が複数いたため可能になった。

また、同社の鈴木武会長から贈られた大型トランポリンの組み立ても合わせて行われた。トランポリンは高所からハーネスで吊り上げてジャンプできる、いわゆる逆バンジータイプ。足場の固定など専門的な作業があり、設営が先送りになっていたが、現役エンジニアたちの手を借りてようやく完了した。

二つの現場ともお互いに声を掛け合いながら和気あいあいと作業が進められたが、工場長の池田孝一さんによれば、普段の仕事は個人での作業が中心という。普段の仕事では、コミュニケーション



シヨンが少なくなりがちだが、山での研修を通じて雰囲気良く変わり、「一体感が生まれ、あと工程が変わってきますね。次に渡す人のことも考え、より丁寧になりました」とのこと。山での共同作業が仕事にも好影響を与えているそうだ。

◇ 同社は一九七二年創業。主にFRP製品の製造加工を行い、冒険家大場満郎さんに自社製のソリを提供し、大場さんの北極海単独徒歩横断記録（一九九七年）にも貢献した。医療・自働車・産業機械・住宅設備など多種多様な業界からのニーズに応え、最近では風力発電など自然エネルギー設備の主要部品の製作に携わるなど活躍の場を広げている。二〇一九年には中郷工場を茨城県内に新設した。

2021年後半の植樹会は10/31から再開予定

5～9月の夏期をのぞく毎月最終週の日曜午前9時から植樹会を行っています（12月のみ変則）。後半は10月31日から再開の予定。本数に限りがありますので、ご希望の方はお早めにご連絡ください。草刈りなどのボランティア作業は月曜をのぞく毎日午前9時から毎日行っています。※月曜が祝日の場合は火曜休み。また、植樹会を含め天候や社会情勢で中止・延期になることがあります。

- 料金 自主植樹 ~~大1本 10,000円~~ 特大 15,000円 (木札1枚200円持込OK)
 - 代行植樹 ~~大1本 13,000円~~ 特大 20,000円 (木札付)
 - プレミアム桜1本 30,000円 (木札付)
- ※苗木の仕入れ状況により、現在は特大のみの申し込みとなります。

- 日 時 毎月最終週の日曜午前9時～
- 集合場所 いわき市平中神谷字地曾作7 いわき回廊美術館前広場で受付
- ご持参いただくもの スコップ・とうぐわ等、長靴、長袖、長ズボン等、山で動きやすい服装でご参加ください。ご希望の方は、早目のお申込みをお勧めします。

お問い合わせ・お申込み
いわき万本桜プロジェクト事務局
TEL.0246 (88) 8970
FAX.0246 (88) 8971

桜を植える山はすべて個人の私有地です。60人を超える地権者の皆さんに、プロジェクトの趣旨をご理解、ご賛同いただいた上で場所をお借りしています。植樹した桜は所有者の事情により、やむなく移動・伐採することもあります。